

コード No. 28113

Anti-Dock8 Rabbit IgG Affinity Purify

容量 : 100 µg

- はじめに : Rho ファミリーの低分子量 GTP 結合タンパク質は、細胞の形態変化、細胞分裂、分化などを司るシグナル伝達因子のひとつであり、個体レベルでは発生や器官形成を制御する重要な役割を果たしています。その機能制御は厳密になされ、機能不全が起った場合には免疫疾患や神経変性疾患などの多くの疾病の原因となっています。
- Dedicator of cytokinesis (Dock) 8 は、この Rho ファミリーの低分子量 GTP 結合タンパク質のなかでも Rac1 と Cdc42 を特異的に活性化する、Rho ファミリー低分子量 GTP 結合タンパク質活性化因子(交換因子)です。Dock 8 は免疫組織、神経組織、胎児期の組織に多く発現しているため、免疫細胞、神経細胞、幹細胞の増殖 分化に重要な因子であると考えられています。高 IgE 血症の原因遺伝子として知られ、多くの遺伝子変異が報告されています。また、血液腫瘍との関連も指摘されています。
- ヒトには、Dock8 ときわめて類似した Dock6 と Dock7 と呼ばれるタンパク質が存在しています。しかし、その制御機構に多くの不明な点があります。
- 免疫抗原 : Human Dock8 の部分合成ペプチド
- 精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定
: 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法 : 免疫細胞染色 10~20 µg/mL
: ウェスタン・ブロッティング 0.2~2 µg/mL にて使用可能
: 免疫沈降法 0.2~2 µg/test にて使用可能
- 特異性 : ヒト、マウス、ラットと反応
- 参考文献 : 1. Côté JF, Vuori K. Identification of an evolutionarily conserved superfamily of DOCK180-related proteins with guanine nucleotide exchange activity. *J Cell Sci.* 2002 Dec 15;115(Pt 24):4901-13.
2. Zhang Q, Davis JC, Lamborn IT, Freeman AF, Jing H, Favreau AJ, Matthews HF, Davis J, Turner ML, Uzel G, Holland SM, Su HC. Combined immunodeficiency associated with DOCK8 mutations. *N Engl J Med.* 2009 Nov 19;361(21):2046-55
3. Miyamoto Y, Yamauchi J. Cellular signaling of Dock family proteins in neural function. *Cell Signal.* 2010 Feb;22(2):175-82.